

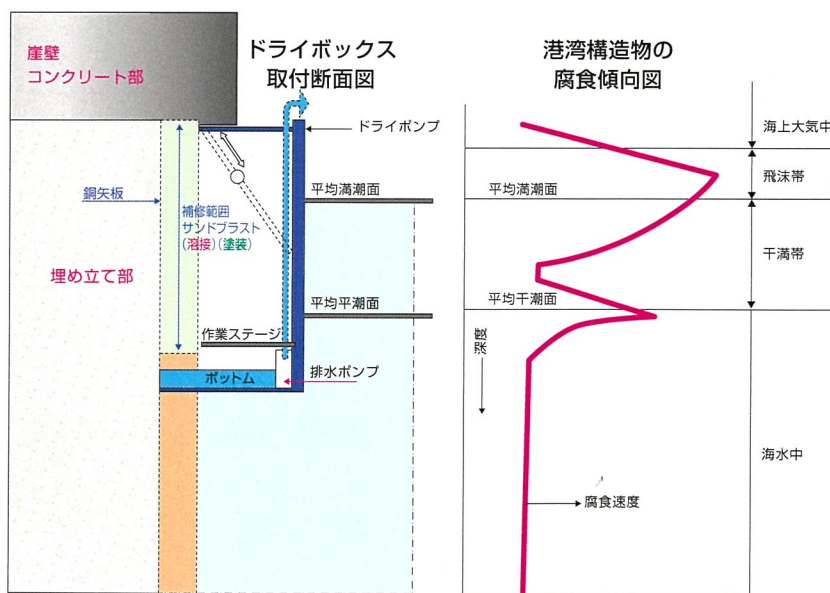
ドライ工法

従来、鋼矢板護岸・岸壁の補修は潜水作業で行うのが一般的でした。しかし潜水作業は海洋状況に左右されやすく、また夜間作業に危険が伴うなど、作業を滞らせる多くの欠点があり、これらを解消することが永年の課題でもありました。そこで新工法では止水箱を用いて気中空間を作り、陸上と同等の作業環境を実現。護岸・岸壁・防波堤の診断・耐震補強・補修を安全にかつ効率よく進めることが可能な画期的工法です。

■ ドライ工法で使用する止水箱



■ 海洋構造物の腐食傾向



特 徴

- 1 陸上と同等の作業環境の構築
- 2 波浪・濁りの影響を受けない
- 3 照明設備を装備すれば夜間作業も可能
(昼間稼働している岸壁の補修が可能)
- 4 気中で監督員による段階確認が可能
- 5 耐用年数の大幅アップが図れる

鋼矢板・鋼管杭等の海洋鋼構造物の補修において特に重視する点は、腐食環境の最も厳しい飛沫帯や干満帯、並びに平均干潮面直下面での腐食進行における対策だと考えます。港湾空港技術研究所の技術資料の中でも、海洋構造物の腐食傾向は下図のように発生すると報告されています。飛沫帯や干潮位下部での局部腐食が進み、孔食・劣化・損耗箇所が顕著に発生している岸壁や護岸も数多く見られます。このような状況に対して鋼矢板等の海洋鋼構造物の飛沫帯、干満帯及び上部コンクリート等の補修を含めたトータルメンテナンスに取り組むことが重要な課題であると考えています。気中化状態を構築し施工することで、より確実に高品質な補修が得られるものであります。それを可能にした工法が、ドライボックスを利用したドライ工法です。鋼矢板へ取付けたドライボックスの断面と腐食傾向を対比して以下に掲載します。

■ 標準タイプ

高 3.5m	奥行 1.3m
幅 3.1m	重量 約3.5t